

ライフステージ

U6 (6歳以下)

U18 (7歳~18歳)

U24 (大学生~大学院生)

方略

1. U6子育てサポーターづくり

2. U18京育の実施

3. 京都と大学・学生のWIN-WINの関係づくり

自分の歩くみち

- ◆U6のためのシンボルロードづくり
- ◆大学や商業施設等の一定規模以上の施設に保育所(託児所)の設置

- ◆U18ウォークラリー
- ◆公共交通教育
- ◆他校との共同授業
- ◆ノーテレビ・ノーゲームデーの導入
- ◆観光アドバイザー体験

- ◆京都地縁サイクル
- ◆フリーペーパーの配布

親世代の歩くみち

- ◆子育てグッズ交換会(子育てグッズフリーマーケット)の開催
- ◆父子手帳の交付
- ◆新しいババママの子育てふれあい体験の拡充
- ◆子育て支援サポーターの一元化
- ◆観光子育てサポーターの設置

- ◆こども大学・オーサービジットの推進

- ◆京都地縁サイクル
- ◆一人暮らし世帯のご近所付き合い
- ◆インターンシップの強化
- ◆京都ボラバイト

祖父母世代の歩くみち

- ◆「孫休」の創設
- ◆祖父母手帳の交付
- ◆子育て支援サポーターの一元化
- ◆観光子育てサポーターの設置

- ◆こども大学・オーサービジットの推進

- ◆京都地縁サイクル
- ◆一人暮らし世帯のご近所付き合い

その他

- ◆大学や商業施設等の一定規模以上の施設に保育所(託児所)の設置
- ◆名札や名刺, 切符などに施策名をさらっといれちゃおう作戦

- ◆こども相談総合案内
- ◆産地・添加物・栄養に配慮した店舗数UP
- ◆京都で職場体験する修学旅行生募集
- ◆京都教育都市宣言

- ◆住宅供給の整備
- ◆大学への保育所設置
- ◆大学の地域への開放
- ◆京都ボラバイト
- ◆地域貢献活動必修化

4. あらゆる世代の居場所づくり

- ◆地域での居場所づくり
 - ◇京都市民サザエさん化プロジェクト
 - ・サザエさん宣言
 - ・サザエさんの家
 - ◇まちの縁側
- ◆送付封筒の活用
- ◆ロコミの利用

ねがい (未来像)

誰もがすべてのライフステージを楽しめるまちに

子ども、若者、お年寄りに笑顔、安心、いきがい、夢を

U24サポーターズクラブによる人と人とのつながり・支えあい

ライフステージ	U6(6歳以下) 産まれる前・胎生時	U7(7歳～18歳) 保育園・幼稚園	U18(7歳～18歳) 小中高校	U24(大学生～大学院生) 大学・大学院	全世代 大学・大学院卒業後			
基本的な考え方 ○現状⇒ ★10年後の姿	○産まれてからの対策⇒ ★産まれる前からの対策 ○高齢者はいたわる対象⇒ ★高齢者は強みを活かして生涯現役で働く	○子育ては両親中心で行う⇒ ★祖父母世代・観光客を子育て戦力に(貢献できるだけのフォローを行う)	○教育⇒ ★京育(働く、地域を知る、食育など生活に必要な知識、主要教科以外もしっかりと学ぶ) ○大学のまち・京都⇒ ★教育都市・京都	○大学が学ぶ環境を用意する⇒ ★京都と大学間にWIN WINの関係構築 ○出身大学で雇用⇒★取得技術で雇用 ○修士論文教育結果⇒ ★修士論文は企業が求める知識開発、第三者評価 ○大学が京都⇒★京都の大学に行きたい ○三世住んだら京都人⇒ ★京都に関われば京都人(京都の広報マンに)	○大学は22歳まで⇒ ★大学は全世代のもの ○学生の管理は大学が行う⇒ ★京都の学生は、京都の学生OBがチュートリアルを行う ○京都らしさを享受するだけ⇒ ★愛着を持ち、京都らしさを維持する側へ ○お願いかなえ型行政⇒ ★自治力支援型行政			
目標(指標)	◇出生率 ◇元気に働く高齢者数	◇近所の人・他世代と遊ぶ子どもの数 ◇育休取得の男女比・孫休取得状況	◇京都で職場体験をする修学旅行生数 ◇自転車の交通ルール遵守率 ◇産地・添加物・栄養に配慮した店舗数	◇大学卒業後の定着率・若者人口 ◇修士論文の企業受託数	◇大学生の平均年齢アップ ◇私生活チューター・ボランティア数 ◇個人の肩書き/所属グループの数 ◇商店街組合/店主の年齢層若返り			
本人の歩み	方略							
他世代との関わり	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 20%;"> <p>U6のためのシンボルロードづくり お泊り保育 盆踊り マラソン大会 ハザー ミニミュンヘン</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p>U18ウォークラリー クラブ活動・文化祭・一人旅 浪人生活・志望校合格・ラジオ体操 運動会・子ども会 ノーテレビ・ノーゲームデーの導入 公共交通教育(自転車教育、車庫見学) 環境教育 学校・学年を超えた交流 ハード面のシンボルロードづくり 他校との共同授業(他都市ホームステイ) 地域を知る取組 うみのこ・みさきの家・修学旅行</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p>学園祭実行委員・就職活動での失敗 大学生ガイド・アーティストインレジデンス 区民ボランティア・サークルでゴミ拾い ホームステイ・小中学生体験学習指導 各大学の小学部・中学部の設置 ユニバーシティスタディーズ 京都を知る仕組み 地域活動インターンシップ又は単位化 京都市全体を博物館に 京都市民の大学生に学割上乘せ フリーペーパー配布(学生支援GP)</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p>地域での居場所・役割づくり サザエさん化プロジェクト みんなの家 素人の乱 まちの縁側 ハルハウス 公共空間アトスペース化 生涯学習・知識取得の仕組み 京カレッジ 京都カラスマ大学 私生活も含めて援助するチューター制度(フィンランドの事例) 情報入手・相談先 温もりの電話 いつでもコール となりのおばちゃん まちづくりアドバイザー</p> </div> </div>							
親世代との関わり	地域子育て支援 拡充事業 パパ・ママ教室 職場での父親対象子育て講座 子育てグッズの交換市場 子育て応援/IT 子育てグッズの支給 プレママ支援	退職者の知識・ 技術を生かした 労働市場の拡大 (産業福祉、教育 福祉等) シニアアドバイザー(京 都シニアアンチークラ ブ・京都シルバー アンチークラブ)	大学への保育所 設置・こども芸 術大学 子育てマイスター・地 域保育士の認定 環境団体と連携 した森林保育 子ども大学探検隊	近所の高齢者と 遊んだ 農家で野菜作り 高齢者の知恵教 室 孫休(育休の祖父 母版) 見守り隊	職業体験・能鑑 賞・祭り・地藏 盆・廃品回収 こども大学・オサ ビジット こども地下鉄大 学・パスタの育成 農業体験・農山 村交流 文化祭への芸術 系大学生作品の 出展 錦市場での売り 子体験 おやじの会	学校運営協議会 の活用(地域サポ ーター学習(高齢者 体験談) 退職後の人材活用 いのちの教育(死 生観の世代間共 有) 観光アドバイザー・ 農業体験・食育	京都地縁サイクル アルバイト インターンシップ 企業との共同研究 伝統産業体験 留学生への社員 寮提供 第三者評価によ る研究費等を稼 ぐ仕組みの導入	介護体験 地域での補助学習 大学・企業・自 治会が集まる場 づくり
その他 (社会基盤整備等)	一定規模企業・施設への託児所設置 男女共同参画・ワークライフバランスの推進 未婚者の出会いの場の創出 住宅・街並みのバリアフリー化 マンション等の同世代入居の制限	保育施設・授乳スペース等の充実 最新子育て知識の習得方法の整備 子育てをフォローする際の家賃補助 虐待の防止	食育ネット(大学生含む)の構築 障害を持つ子とその親への支援 不登校・中退者への対策 教育都市のイメージ・PR戦略 (他都市の高校生をターゲットに)	大学の誘致・都心部への回帰 大学の授業及び夜間の開放 大学生の活用の仕組みの導入 (地域貢献活動必修化・ボランティア)	ポスト・ドクター対策 魅力ある居場所の確保(町家、屋台、 小学校・大学の解放、商店街空き店舗、 袋路の公園化) 効果的な広報(必要な時に必要な人へ)			

方略：・体験(楽しかったことや挫折など) ・取組事例、アイデア

重点戦略 U24 サポーターズクラブによる人と人とのつながり・支えあい Dユニットからの提案

ねがい（未来像）

誰もがすべてのライフステージを楽しめるまちに

- ～子ども、若者、お年寄りに笑顔、安心、いきがい、夢を～
- 子どもの笑顔と安心なくらしを地域力が支える
 - 若者がいきいきと京都で学び、京都で働く
 - 互いに教えあい、学びあい、人生を楽しむ

【重点戦略の基本的な考え方】

U24（0歳～24歳）の子ども（大学院生まで）を核とし、ライフステージに応じて、多世代をつなぐ京都らしい横断的な戦略を展開する。U24への参加・関わりを通じて、“京都に関わるすべての人たち”が京都を知り、学び、得た情報を発信していくことで、京都にさらなる愛着・関心を持つとともに、それを次世代に引き継いでいける仕組みをつくる。

この仕組みにより、一人ひとりが京都市民として活躍する居場所・役割を持ち、互いに育てあい、支えあい、認め合うことが当たり前になされる魅力あふれるまちを目指す。

※ サポーターズクラブ＝U24をサポートする人たちの総称

《現状と課題》

- ・ 少子高齢化、大学卒業後の転出により、次代の京都を担う若い力が失われつつある。
- ・ 高齢者が増加しているものの、元気な高齢者は多く、若い力をサポートすることを通して、生涯現役でいてほしい。多くの“居場所”をつくってほしい。
- ・ 若い世代へのサポートを軸とするが、ライフステージごとに抱えている問題は異なるため、それぞれに応じた取組を検討する必要がある。

《目標》増加を図るもの

出生率、24～46歳人口、20代の定住希望率、子育て支援実施企業数、高齢者のボランティア参加人数、“居場所”数、これまでの福祉・教育サービスの利用率

《条件》（資源）

- ・ 学区
- ・ 大学、学生
- ・ これまでの福祉・教育サービス

《主体》

- ・ 市民、観光客
- ・ 企業、幼稚園・保育園、学校、地域コミュニティ、NPO、行政

《方略》⇒詳細別紙

1. U6子育てサポーターづくり

京都に関わるすべての人が子育てをサポートできる仕組みをつくり、サポートする側もされる側もそれを当たり前を受け入れられる仕組みをつくる。

2. U18京育の実施

京都に愛着や誇りを持ってもらえる、京都独自の教育（京育）を通して、京都に関するさまざまなことを知り、学び、触れ、人と接するだけでなく、得た情報を発信できる人材を育成する。

3. 京都と大学・学生のWIN-WINの関係づくり

京都の学生が、京都のさまざまなこと（子育てや京育、地域活動など）にとけ込むことが当たり前となり、それが学生にとっても人生のプラスになる仕組みをつくる。

4. あらゆる世代の居場所づくり

誰もが気軽に利用できるスペースやコミュニティをつくり、自分が所属するライフステージ以外の取組にも積極的に参加できる仕組みをつくることで、自分の“居場所”が複数存在することを目指す。

《イチ押し策》

1. U6のためのシンボルロードづくり

保育園等の周りの道を、U6が安心・安全に歩ける道（U6ロード）に創り変える。“みんな”がU6とその親世代と関わるきっかけをつくる。

2. U18ウォークラリー

小中高が合同授業で一緒にウォークラリーを実施。地域に根付く文化財に触れ、伝統行事・産業を体験することで、人や地域と関わりながら京都の魅力を知る。

3. 京都地縁サイクル

京都の一人暮らし世帯が地域と触れ合う機会を設ける。将来的に子どもを授かったら京都に住みたい、度々京都に訪れたいと思わせるような地域についての思い出や地縁をつくり、京都やそこに住む人への愛着を持たせる。

4. 京都市民サザエさん化プロジェクト

「サザエさん」一家のような、多世代が自然と集まり囲らんする家族や地域コミュニティを京都に増やすことを目的とした取組を行う。

方略名

U6子育てサポーターづくり

方略の未来像

地域において気軽に子育ての相談ができ、サポートを受けられるとともに、地域の誰もが気軽に子育てのサポートができる環境づくりを進めることで、両親中心の子育てから、祖父母・地域を巻き込んだ子育てへと発展させる。

現状と課題

- ・ 核家族化の進行などにより世帯構造が変化し、地域との繋がりが希薄化する中で、子育てに関して親族や近隣からの援助を受けにくいなど、夫婦の子育ての不安や負担が増大している。(就学前児童の母親に子育てについての気持ちを聞いたところ、71%が「子どもがいると毎日楽しい」と回答したが、一方で、「不安、悩む」「生活や気持ちにゆとりがなくいらだつ」という回答も40%を超えている。【新「京・こどもいきいきプラン」】)
- ・ また、父親の育児休業取得率は1%程度、父親が子育てに関わりづらい理由として「残業などが多く仕事を優先せざるを得ない」(約70%)、「子どもや家庭のことで休みを取ることに職場の理解を得にくい」(約40%)が挙げられる。【新「京・こどもいきいきプラン」】)
- ・ しかし、京都市は就学前児童数に対する保育所定員割合が政令市で最も高く、待機児童も116人と3番目に少なく【京都市の政策方向に関する基礎資料、平成18年】、
- ・ 行政やNPOなども多くの子育て支援事業を行っている。(例、ファミリーサポートセンターの活動件数：平成15年度4238件→平成20年度12405件、子育て支援活動いきいきセンター(つどいの広場)の数：平成19年度9箇所→平成21年度20箇所に増設予定【新「京・こどもいきいきプラン」】)
- ・ ファミリーサポートセンターや子育てボランティアバンク等に登録しているのは退職した人や子育てが一段落した50代～70代が多く、シルバー人材センターなど既存の高齢者組織も多数あるなど、元気な高齢者が多い。
- ・ OK企業(O:おやじ/K:子育てに理解がある)と認定されているのは186社。(市長マニフェスト→1000社)
- ・ 数多くの子育て支援事業が行われているが、市民や地域に十分に認知および活用されているとは言えない。
- ・ 利用者の声としては、突発的な用事ができたときは土日祝日でも預けられる点が便利、1～2時間でも預かってもらえるのがよい、預ける理由などを尋ねないなどの配慮などが挙げられる。

- ・ 子育てに関して、市・府・国に期待することは、①医療サービスの充実、②経済的負担の軽減、③就労環境の整備、④子どもの安心安全対策【新「京・こどもいきいきプラン」】
- ・ 子育てをする上で地域に期待することは、①子どもが事故や犯罪被害に巻き込まれないよう気を配りあうこと、②子ども危険な行為やいたずらを注意しあえること【新（京・こどもいきいきプラン）】
- ・ 自主活動に当たって行政や地域に期待することは、①活動場所の提供（場所貸しなど）、②情報発信やPRなどに関する支援（掲示板の開放など）、③活動資金の助成（新「京・こどもいきいきプラン」）
- ・ 「隣近所の人との付き合いは大切にしたい」と思っている市民は多い。【次期京都市基本計画策定のためのアンケート調査】
- ・ 市民活動に参加していない理由として、①活動できる時間がない、②活動についての情報が得られないという意見が多く、その問題が解決すれば、市民活動に参加したいと考えている市民は多い【平成16年度第3回市政総合アンケート】

→ 父親・祖父母・地域（企業）の育児参加、既存の子育て支援事業の認知度および活用度を高める、若い世代のサポーターを増やす、活動場所・資金を提供することが重要である。

→ まずは子育てに参加するきっかけづくりが重要。きっかけと継続性が人とのつながりと信頼を生み、子育てをしあえる、支えあえる関係が構築できると考えられる。

解決策

取組名 U6のためのシンボルロードづくり<イチ押し策>

説明 U6世代が関わる施設（保育園や幼稚園など）の周りの道路を、“みんな”で特色のあるもの（フラワーロード、お絵かきロードなど）に自由にデザインし、子どもに「車に気をつけてね」と言わなくてよい安心・安全な道路を創る。小中高大や地域、企業、観光客が参加できる仕組みをつくり、「道路は誰のもの？」と問いかけ、少なくともすべての道路が自動車優先ではないことを再認識させる。

各地に小さなシンボルロードづくりが広がり、それぞれが完成していったら、次はシンボルロード同士をつなげるシンボルロードをつくることで、人と人とのつながりもより広がっていくことになる。いずれはすべてのシンボルロードがつながり、より多くの人とつながるようにしていく。

すべての世代がU6世代（と子育て世代）と気軽に接することができる機会を提供すると同時に、U6世代の安心安全な場所の確保・拡大、新しい京都の魅力や観光の形の創出など、さまざまな効果を生むことが期待できる。また、シンボルロードづくりは単発のイベントではなく、（維持・管理などを含め）継続的に行える・行うべき

イベントなので、ライフステージが移っても参加でき、次代に引き継いでいける仕組みづくりのパイロット事業にもなりうる。

<新規>

取組名 孫休の創設

説明 祖父母世代も、孫のために育児休暇を取得できる制度を創設する。

取組名 父子（祖父母）手帳の交付

説明 母子手帳の父親（祖父母）版。ただし、父親（祖父母）の子育て参加について、かゆいところに手が届くような情報も載っている。

取組名 大学や商業施設等の一定規模以上の施設に保育所（託児所）の設置

説明 保育園・幼稚園以外で“みんなで子育て”を実施する場所（大学、スーパー、百貨店だけでなく空き店舗、空き教室なども活用）を創出する。子どもを安心して遊ばせられる環境を提供する。

取組名 子育て支援のサポーターの一元化

説明 ファミリーサポートセンターや子育てボランティアバンク、シルバー人材センターなどの子育て支援のサポーターを一元化することで、利用者にわかりやすい・使いやすいシステムにする。

取組名 観光子育てサポーターの設置

説明 観光業界と連携して、京都観光時に町家ステイとセットで近所の子育てをサポートすることなどを含めて“京都の生活を体験できる”ようにする。観光の新たな魅力を創出すると同時に、京都を子育てしやすいまちとして全国にアピールする。

取組名 名札や名刺、切符などに施策名をさらっと入れちゃおう作戦

説明 市職員の名札や名刺に、京都市で取り組んでいる子育て支援事業の名前を入れて、視覚的に少しでもアピールする。

<従来 of 事業拡大>

取組名 子育てグッズ交換会（子育てグッズフリーマーケット）の開催

説明 定期的に学区単位、行政区単位、全市単位で子育てグッズの交換会（フリーマーケット）を開催する。

取組名 中高生と赤ちゃんふれあい交流事業の拡充

説明 中高生がU6と触れ合う機会を全市的な取組として発展させる。保健体育の授業の一環で保育園や児童館などに出向いて、赤ちゃんとふれあう機会をつくる。

取組名 新しいパパママの子育てふれあい体験の拡充

説明 新しくパパママになる人は、子育てに必要な知識を学び、体験できる機会を必ず得られるような環境をつくる。

すべての取組が個別に実施することができ、シンボルロードづくりにつながることもできると考えています。

方略名

U18京育の実施

方略の未来像

将来の京都を担う若者が、京育を通して愛着や誇りを持つことが出来、それによって得た力を次世代に引き継いで行く人材を育て、魅力ある学び場のまちとなる。

現状と課題

- ・ 学校施設の利用状況
ディサービスセンター3校 特別養護老人ホーム3校 児童館19校
学童保育所14校 学校ふれあいサロン138校 防災備蓄倉庫の設置54校
学校コミュニティプラザ14ゾーン（67校） 高齢者福祉施設1校
- ・ 生き方探求教育（キャリア教育）
自然体験やボランティア体験、インターンシップ等の社会体験、京都スチューデントシティ・ファイナンスパーク学習などの体験活動の推進と充実を図っている。受け入れ事業先の理解があり、事業所数は年々増加している。
- ・ 取組について知っている市民が少ない。
- ・ 各々の団体のネットワーク連携が希薄であるために成果が分散したままであり、世代ごとを対象とした連携をめざす。
- ・ 広報活動・啓発活動の一元化が必要。
サービスの受け手ではなく、提供者が情報を整理して受けて必要なものをまとめて発信する必要がある。
- ・ ボランティアがもっと必要。
ボランティアを当たり前に行っているという環境を作ることが大事である。
- ・ 子育てに関する取り組みや地域活動は、任意参加であり、必修・強制はできない。
- ・ 市民の意識は「隣近所との付き合いを大切にしたい」8割が賛同していて、「地域の人々との交流は大切だと思う」9割と高い。【基本計画策定のためのアンケート調査】
- ・ 学校運営協議会の設置 121校
- ・ 学校教育に望むことが多様化・複雑化している中、要望にこたえるため、市立高校9校では豊かな人間性・社会性を育むとともに、進路希望の実現を図る為の教育活動を展開している。
- ・ 市民や行政が力を合わせて取り組む機会が十分ないと多くの市民が思っている。

解決策

取組名 U18ウォークラリー<イチ押し策>

説明 小中高が合同授業と一緒にウォークラリーを実施。地域に根付く文化財に触れ、伝統行事・産業を体験することで、人や地域と関わりながら京都の魅力を知る。

取組名 公共交通教育

説明 市バス・地下鉄・自転車等の利用の仕方やメリットを定期的に教えることで、「歩くまち京都」を子供の時から学ぶ。市バスや地下鉄の車庫見学会などを通じて、より身近に接する機会も増やす。

取組名 他校との共同授業

説明 他都市でのホームステイを体験することで、生活習慣、歴史や文化の違いを学ぶ。郷土に対する誇りや愛情を生む。

取組名 こども大学・オーサービジットの推進

説明 小学生が大学で勉強したり、大学生と触れ合う機会を増やす。作家や芸術家などの特別講師によるのユニークな事業を体験する。

取組名 ノーテレビ・ノーゲームデーの導入

説明 教育の原点である家庭の教育力の向上をめざす。地域でのつながりや学びの時間をつくる。

取組名 観光アドバイザー体験

説明 学校教育に伝統産業・文化の実践講習や観光案内を行うカリキュラムを導入

取組名 こども相談総合案内

説明 教育委員会，保健福祉局，区役所や関係機関・施設の情報発信の一元化

取組名 産地・添加物・栄養に配慮した店舗数 UP

説明 京野菜などに小さい頃から親しむと共に食育を促すことで、京都全体で栄養に気をを使う人が増える。

取組名 京都で職場体験をする修学旅行生募集

説明 京都の伝統文化・産業を体験してもらう事で、京都の魅力を他都市の学生にアピールする。

取組名 京都教育都市宣言（教育都市のイメージ・PR戦略）

説明 「大学のまち」という強みを生かして、大学と小中高が連携することが当たり前の環境をつくる。【小中高の近くに大学がある→学力に力を入れている→子どもを育てやすい環境→教育に力を入れたい世代が集まる】ように、京都は子育てや教育がしやすいまちであるとPRする。

方略名

京都と大学・学生の WIN-WIN の関係づくり

方略の未来像

京都の学生が、京都独自の子育てプログラム＝京育や、地域の活動などに関わることが当たり前となる仕組みをつくる。大学を全世代にとっての学びの場とし、京都の財産とする。

- ・ それ自体が、学生にとって人生のプラスになるようなものであり、大学から京都に来た学生がそのまま京都に住み続けたいとなる環境を整える。
- ・ 大学は学生だけのものではなく、全世代のものとして、地域の人々の生涯学習の場、交流の場、遊び場、ともなるようにする。

現状と課題

- ・ 入学前に大学を選ぶ基準において、入試での入り易さに重きが置かれている。自分の人生なのでまずやりたいことがその大学にあるかどうか重要。京都市は多くの大学を抱えているため、入試方式に関しては全国でも優位にあるはずである。
- ・ 大学から京都に来た学生の定着率が悪い。
- ・ 京都という地域の良さに触れるきっかけがあると京都に住みたいと考える大学生は多い。
- ・ 市外から来た人を京都人として認めない傾向がある。
- ・ 京都に興味があっても働き口が少ない。
- ・ 学生の定着や高齢者夫婦に適した少家族向けの住戸が不足している。
- ・ 大学と地域との間で、地域と関わるお互いのメリットを見つける。
- ・ 文化や自然等のまちの住みやすさ、人の温かさ、柔らかさが京都の魅力。
- ・ 「京都で」学生であることの特典が少ない。
- ・ 単位互換授業履修手続きの簡易化が必要。
- ・ 京カレッジの単発講座や無料講座を増加すると良い。
- ・ 生涯学習の利点についての市民認識が低い。
- ・ 単位互換授業や生涯学習科目での内容向上に努める仕組みが必要。
- ・ 大学からの接続の良さと単位互換授業受講率とは必ずしも比例しない。大学内の単位互換授業に対する取組み具合が大きく影響する。
- ・ 生涯学習では、定年後の男性層（60代以上）と子育て終了後の女性層（50代、60代以上）が、出願者数の65%を占めるキーパーソンとなっている。

解決策

解決策 京都地縁サイクル<イチ押し策>

説明 京都には学生が多いが地域に根ざしていないため、京都の良さを伝えきれずに転出してしまふケースが多い。一人暮らし世帯同士が触れ合う機会を多くすることで地域に愛着を持ってもらい、将来的に子どもを授かったら京都に住みたい、度々京都を訪れたいと思わせるような安心で愛着ある街づくりを目指す。

地域の一人暮らし世帯が集まりやすい場所（定食屋やカフェ）を紹介したり、メッセージノートや地域活動のビラ等を置いておいたりする。「近所にこんな場所や活動があるんだ、こんな人が住んでいるんだ」と近所を知り仲良くなることで、地域に触れる機会を作る。マンション・アパートの大家さんや大学に協力してもらい、近所の一人暮らしの人が集まる箇所を示した地域マップや、その地域を転出する人から転入する人へ向けたメッセージやアドバイスを作成してもらう。

また、関西特有の寺社の定例市・祭や地藏盆やお御輿、町内運動会や地域清掃の呼びかけを町内会だけでなく一人暮らし世帯にも行うことで、京都に触れる機会を設け、京都大学生活だけでなく地域についての思い出を作っていく。特に、学生は携帯やPCなどからの情報をよく見ているので、その点について強化する必要がある。

解決策 インターンシップの強化

説明 京都の企業は、学年・年齢に関係なく、京都の学生を常に受け入れられる体制を整える。京都にしかない伝統産業等を短期間で体験できるようなプログラムを取り入れることにより、京都で働くイメージ作りを手伝う。

例えば、京都には伝統産業が多いものの、その担い手は年々少なくなっている。これは、伝統産業の多くが若年時での弟子入り制をとっていること、仕事内容や収入や休日等の就職サイトでは現在当たり前に載っている情報が開示されておらず一歩踏み込みにくいという状況が一因だと思われる。舞妓になりたいが親に反対されている、真剣に興味があるので一度体験してみたいという学生のために伝統産業にもインターンシップを用意する。

また、京都市ではワコールや島津製作所、京都市近隣では京田辺市の椿本チェーンといった国内大手企業や、町の工務店・自転車屋などの中小企業がある。このような企業に、中高大学生に対してのインターンシップを行ってもらうことで、学生に進路を考えるきっかけにしてもらう。また、企業側、特に一般に馴染みの薄い商品製作をしているところ、は自社の製品や名前を売り込むチャンスである。また、インターンシップに来た学生が企業コーディネーターとなって、今までに訪問した企業間での提携や技術交流を進めるよう義務づける。

解決策 フリーペーパーの配布

説明 学生支援 GP 選定による大阪城南女子短大のミニコミ誌「大阪ほっとコミ」のように、学生が提案・発表し、それが活用される場を設けてやりがいを引き出す。

解決策 地域貢献活動必修化

説明 大学の授業で、地域貢献履修項目を必修化する。学生にとって京都で暮らすことのきっかけ作りとなる。

解決策 京都ボラバイト

説明 ボランティア+アルバイト=ボラバイト。ボランティアをしたいけど、アルバイトする時間がないと困るという学生のために安価な給料でボランティア活動を行う。京都でしかできない京野菜作りの手伝い等のボランティア活動を対象とする。

解決策 住宅供給の整備

説明 学生の定着率が高まった場合や少子高齢化が進むにつれ、少人数向けの住宅が不足するという問題が発生するので住宅供給を整備する。但し、地域ごとに人口ピラミッドに偏りが出ないように、各地域での世帯数の年代制限を行う必要がある。また、京都市の各地域での特色分け（伏見区は工業地帯等）を残したまま、どの地域に住もうとも、交通の便等に不公平のないよう配慮せねばならない。

解決策 大学への保育所設置

説明 生涯学習の場として子育て中の主婦なども大学での活動を利用しやすいよう、大学内に託児所や保育所を設置する。

解決策 大学の地域への開放

説明 大学と小中高及び地域との連携を深めるため、夜間のグラウンド開放や体験授業の受講を行う。地域活動の場や、生涯学習の場として大学を利用する。また、大学を身近に感じてもらうことで進路選択に京都の学校という意識付けを行う。

方略名

あらゆる世代の居場所づくり

方略の未来像

誰もが気軽に利用できるスペース・コミュニティをつくり、自分が所属するライフステージ以外の取組にも積極的に参加できる仕組みをつくることで、自分の“居場所”が複数存在することを目指す。

現状と課題

- ・ 家族像の変化により、核家族や単独世帯が増加している【国勢調査「京都市の家族類型別一般世帯数（比率）の推移」】。また、ご近所づきあいは希薄化しており、町内会・自治会への参加頻度も少なくなっている【内閣府「国民生活白書」（平成 19 年度版）】。
更に、地域内でのつながりだけでなく家庭での親子のつながりも希薄化しており【「低年齢少年の生活と意識に関する調査の結果について」（平成 19 年 3 月）（内閣府）】、自分が孤独であると感じる日本の子供は他国と比較すると突出して多い【自分が孤独であると回答した 15 歳の割合 内閣府「国民生活白書」（平成 20 年度版）】。人と人とのつながり自体が弱まっている。
- ・ 一方で、社会への貢献意識は高まっている【内閣府「国民生活白書」（平成 19 年度版）】。NPO 法人数は年々増加し、今後も増加傾向は続くと思われる【京都市客観指標基礎データ】。
- ・ さまざまなNPO法人やボランティアの活動、地域でのサークル活動などがあるものの、市民にうまく情報提供がされておらず、認知度が低い【市民聞き取りアンケート（平成 20 年 9 月・10 月に 3 回実施）】。予算に制限もあり、うまく広報できていないのが現状。フリーペーパーや一般の雑誌の特集記事、ロゴマークやシール、ロコミや市からの送付封筒の活用など、経費を抑えつつ大きなPR効果が得られるよう、広報の方法を工夫する必要がある。
- ・ 市民の活動拠点となる市の施設【京都市ホームページ 施設情報（一覧）】は設置されている。
- ・ 一人暮らしの高齢者は増加している【内閣府「高齢社会白書」（平成 20 年度）】。
- ・ グループ活動に参加する高齢者が増加傾向にある【内閣府「高齢社会白書」（平成 20 年度版）】。今後増加する高齢者に向けて、世代間交流活動に魅力を感じてもらい、参加してもらえるよう広報する必要がある。

解決策

地域での居場所づくり

取組名 京都市民サザエさん化プロジェクト<イチ押し策>

説明 ①サザエさん宣言

「サザエさん宣言」をする家族やグループを募集。「波平さん、フネさん、マスオさん、サザエさん、カツオくん、ワカメちゃん、タラちゃん」に当てはまる人物を揃え、申請する（男女問わない。性別が違ってても、一家またはグループの中で、それぞれの人物的な役割を果たしている人であればOK。）。これ以外に「サザエさん宣言」ができる条件は、家族であれば毎日2時間は家族団らんの時間をもつ、家族揃ってご飯を食べるなど。グループであれば、週数回団らんの時間を持ち、揃ってご飯を食べる、レクリエーション活動をするなど。

「サザエさん宣言」が認定されれば、各種の割引サービスを受けられ、希望があれば「京都市の磯野家」として市民新聞などで紹介され、市民新聞等の企画などの1コーナーを担当できるなどの特典がある。→広報の一環にもなる。

②サザエさんの家

若者が気軽に立ち寄れる家を作る。そこは遊び場と居場所の役割を果たす。困ったときにアドバイスをくれる「波平さん」や何でも気軽に相談できる「フネさん」、一緒に話をしたり、遊んだりする「カツオくん」「ワカメちゃん」のような人がいて、親や友人以外で相談できる存在となる。

市内にサザエさんの家となる場所を作る（できるだけ既存のものを利用）。

サザエさんの家＝町家。掘りごたつでゆっくりと話せる雰囲気。京都ならではの遊び・料理・伝統文化などについての体験もできる。

取組名 まちの縁側

説明 かつて、まちのいたるところでごく自然に存在し、地域コミュニティーの形成に重要な役割を果たした縁側の現代版。誰もが気軽に立ち寄れる交流サロンとして注目され始めている。

具体的事例

①とねりこの家（京都市下京区）

コーポラティブハウスの組合員や町内会などの地域の人々、「上京区に『とねりこの家』をつくる会」の会員らの支援を受けながら、誰もが気軽に集い、交流する地域に開かれた福祉交流サロンづくりを目指す。高齢者、障害者、子どもたちなど社会的弱者と捉えられてきた人たちがまちの主人公となっていくような地域づくりを行うことを目的としている。従来のふれあいサロンとは異なり、補助金や対象者規定、日時などの制限に縛られないため、誰もがいつでも利用できるサロンとなる。

【事業内容】

- ・ 交流事業（高齢者と子供の交流，子供用図書・絵本コーナーの設置）
- ・ 健康・介護・住環境改善相談
- ・ 朝がゆをみんなでつくり食べる会の開催
- ・ 音楽会の開催

②まちの縁側 MOMO（名古屋市）

誰もが気軽に立ち寄れるサロン，ギャラリーとして月 4 回手づくり楽しもう会を実施。その他にも季節を感じさせてくれる作品展，ワークショップを開催。

③西ノ京の町家通り

西ノ京の住宅街に昭和の始めに建てられた賑やかな 9 棟の連棟町家が立ち並ぶ通りがある。その町家には元々住み続けている住人に加え，建築やウェブのデザイナー達，お菓子教室や語学教室を営むフランス帰りの食ジャーナリスト，学生の集う家として楽しむ大学の教授など，様々な住人がいる。空き家になった 1 軒の町家を昭和時代の姿に修復し，更に空き家となった隣の 1 軒も同じく修復し，…を繰り返して現在の町家通りとなった。教室を開いたり，町家で宴やパーティーを開いたりすることで，近所の方も巻き込んだ付き合いが生まれている。町家が修復されたことにより，まちにゴミがあまり捨てられなくなったり，近所の方が誇りに思うようになったりと，ちょっとした「良いこと」があふれるようになっている。

④素人の乱

自由な生き方を求める若者グループ。東京都杉並区の J R 高円寺駅近くの北中通り商店街で，リサイクル店や古着屋，飲食店など 7 店舗を運営し，商店街とともに街の再生に取り組んでいる。

生涯学習・知識取得の仕組み

具体的事例

○フィンランドの教育手法

大学の授業料は無料。17 歳以上の学生には，500 ユーロの生活援助がある。研究のプロジェクトチームの計画が立つと，スポンサー集めを開始。修士レベルの学生が企業から委託を受けて修士論文を書くことも（教育が産業と結び付いているとの批判あり）。大学はチューターシステムで，私生活を含めた援助がある。また，国公立大学のすべての学部・学科の授業を選択できるシステムをとっている。

広報の工夫

取組名 送付封筒の活用

説明 市からの送付書類の封筒やはがきを利用し、市の取組を紹介する。

取組名 ロコミの利用

説明 子どものロコミが親の耳に入り、親同士のロコミとなって広がっていくというパターンが多い。子どもの心をつかむことができるよう、保育施設や公園等でのPR方法を考える（これらの施設でのイベントの企画等）。ただし、嘘の情報が流れないように、発信する情報を精査する必要がある。